

自治会報 Inews⁺

臨時合併号

発行
平成 30 年 2 月 8 日
大阪府立生野高等学校 自治会広報部
& 自治会執行部



大阪市長と会談してきました！

こんにちは、生野高校自治会執行部です。私たちは、去る 12 月 11 日、本校卒業生である吉村洋文大阪市長と会談を行いました。今回の臨時合併号は、その時の会談内容について特集していきます。

吉村市長は生野高校の卒業生であり、当時在学中に聞いた本校卒業生の弁護士の講演会に触発され弁護士を目指したとおっしゃっていました。大学を卒業し、芸能人やしきたかじんさんの顧問弁護士を務められた際、政界への進出を勧められます。自ら政治の世界の中心でどのようなことが起こっているか確かめるため、また日本の政治を動かすために吉村氏は政界に進出します。

質問「大阪をどのように変えていきたいか？」

吉村氏はこの質問に際し、まず何よりも大阪が日本全体を引っ張っていきけるような府にしたいとおっしゃいました。政治という観点から見た今の大阪は、市役所と府庁の二重行政があり、スピード感が損なわれています。吉村氏は会議の日数を見直すなど日々の在り方の改善から大阪都構想まで多くの制度改革を行うことで政治を変えたいとおっしゃられます。大阪万博もまた、そうした大阪を元気にする事業の一つです。オリンピックとは違う、何を行うのかが大抵の人たちにとって“よく分からない”といったものになってしまいがちな万博構想を、大阪大学の学生等も交えながらより市民参加型のものにしたいとのことでした。

質問「より良い演説について」

吉村氏は、演説において最も重要なことは「わかりやすく、ハッキリ」と伝えることだと明言されました。伝えたいキャッチフレーズをキャッチコピーのようにして話すことを、記者会見の時などでも心がけられています。複雑な内容でも簡潔にはきはきと言うことで多くの人に広報されるそうです。

「“政治家” という職業について」

前述した通り、吉村氏は高校時代に講演に来られた弁護士の方の影響で弁護士を目指されるようになります。依頼者との 1 対 1。嘘が許されない深い関係を築き上げ、結果を得たときに零れる「ありがとう」の一言は、高校生の時には想像できなかったほどの喜びだったそうです。弁護士と政治家、どちらも人の苦勞、そして悩みを背負わなければならない仕事です、だからこそ、その仕事をやり遂げたときの喜びは大きいのかもしれません。

質問「これから取り組みたいこと」

大阪が日本を引っ張っていく、そんな府にしたいとおっしゃった吉村氏は教育と勉強にも言及されていました。吉村市長曰く、「勉強と生きてゆくための武器であり技術にもなりうるもの」 だそうです。生野生へのメッセージには、「目標や夢を掴むために必要な勉強という力を手に入れるためにぜひ頑張ってもらいたい」とおっしゃられていました。

吉村市長との対談を通して、私たち自治会は政治という世界で起こっている多くの真実を学ぶことができました。この Inews+臨時合併号でその一端を伝えることができれば幸いです。ありがとうございました。(玉置 優)

裏面には、通常の各学年通信と CLUB News を掲載しています。読んでくださいね！